

日立市コミュニティ推進協議会 設立四〇周年記念式典活動推進功労者表彰

十一月十四日(土)午後一時から日立市コミュニティ推進協議会の設立四〇周年記念式典・講演会がシビックセンター音楽ホールにて行われました。記念式典でコミュニティ活動功労者表彰が行われ、当学区から次の方々が受賞されました。

◎コミュニティ活動特別功労者表彰

(推進協議会会長及び二十年以上単会会長を務められた方)

柴田 和彦 会長

◎コミュニティ活動推進功労者

・皆川 直司氏・松本 俊一氏・白土 孝信氏・佐藤 捨松氏
ホールロビーでは二十三コミュニティの活動紹介のパネル展示。功労者表彰後、事例(活動)発表続いて講演会では、フリーキャスター(元NHKアナウンサー)押尾正明氏による「あなたが主役でまちが輝く」地域の底力のヒミツ」と題して、事例を交えながらの講演でした。

福祉功労者が顕彰されました

◎日立市社会福祉協議会会長顕彰

平成二十七年十一月十一日、日立市社会福祉協議会の「ふくしのつどい」が、ゆうゆう十王Jホールに於いて開催され、多年にわたり地域福祉活動を実践されて、社会福祉の発展に寄与された功労者が顕彰されました。

会瀬学区からは、左記の三名の方々が顕彰されました。

◎社会福祉団体役員功労者(在職十年以上)

松本 俊一氏(前・学区社会福祉協議会副会長)

菊地 智子氏(おもちやライブラリー委員長)

◎社会福祉活動協力援護者(在職五年以上)

寺山 啓子氏(サロン活動)

「還付金があるからATMを操作して」は詐欺です

郷土博物館館長小松徳年氏(助川中第9回卒)著の「水戸藩の政治と庶民の動向」には徳川光圀や徳川斉昭の社寺改革について記されているが、会瀬に関係する興味あることが多いので紹介する。

ふるさと会瀬から

会瀬村の寺や神社 その一

江戸時代の初期、寛文3年(1663年)水戸藩が村々に命じて作成された「開基帳」に寺院や神社の一覧がある。会瀬村になる前の相賀村には六つもの寺があった。格式が高かったのは真言宗・海照山秀行院 福聚寺で、十王町友部の法鷲院の末寺である。所在地は日立製作所日立事業所本館あたりであった。その他に法鷲院の信徒が開山した修住院 福性院 成就院があり、福聚寺の信徒鏡存が開いた寺もあり、山伏常力の寺もあった。いずれもどこに在ったかは不明である。

神社は羽黒神社・鹿島明神・富士神社・天神社・津明神が存在した。司祭者は前記の修往院や福性院などの僧侶であり神仏習合(混淆)の世であった。水戸藩第二代藩主徳川光圀は寛文6年(1666年)神仏習合を改め、正しい神社崇敬を進めるとともに、寺の乱立により民衆の生活に弊害が及んでいるのを除去し、秩序ある宗教制度にしようと改革を実施した。寺については無益な小寺は破却する方針で、破却の条件を示し一つ一つの寺が点検された。その結果、相賀村では福性院・成就院は僧が死亡後破却され、鏡存は僧から一般人になった。この改革により日立地方の179寺のうち106寺が整理され処分された。神社の改革の内容は一村一社の鎮守制・仏像を神道的な神体(幣、鏡)にする・司祭者を僧侶から神職に代える、などだった。この改革により元禄8年(1693年)相賀村の鎮守の神社は鹿島明神になった。その際、神体であった仏像が取り上げられ幣(幣束とか御幣ともいう。神社でお祓いの際使用する)が神体になった。司祭者は成沢村の瀬谷長門である。現在の会瀬鹿島神社・成沢鹿島神社の神官の先祖であるが、この当時は瀬谷長門守義次と名乗っていた。しかし同じ元禄8年に徳川光圀は宮田村の神峰神社に参拝し、神峰神社を宮田村、助川村、相賀村の鎮守とした。

コミュニティ助成事業

学区コミュニティでは、27年度一般財団法人自治総合センター(コミュニティ助成事業)に会瀬小学校に設置してある防災備蓄倉庫の破損(校庭工事の際仮置き中強風転倒)により防災関係の備品の保管が困難となり助成申請し、新しく倉庫を設置しました。

また、倉庫の整備及び備品の充足として、救護・機器運搬にリヤカー、4輪台車を購入し10月31日自主防災訓練時に活用披露しました。



小川医院 小川 清先生逝去 平成27年10月15日享年89

11月28日に開催された、お別れ会において地元住民を代表しお別れの言葉を述べた今橋孝行氏の追悼文です。

小川先生と会瀬学区住民とのかかわりは身近な医療機関としてだけでなく、健康相談や食事相談そして会瀬小学校の校医としての健康教育と多岐にわたってのご活躍本当にありがとうございました。奥様の英子先生が相賀町に診療所を昭和29年に開設、31年小川医院を小川清先生が院長として開院しました。以来60年にわたり奥様の英子先生とお嬢様の百合子先生ともども医療の道を歩んでこられました。このお姿は小川先生が常日頃提唱されていた「地域医療の確立」そのものであります。県や日立市の医師会長として多くの業績を残されました。日立メディカルセンター設立と看護師養成に取り組まれたことは特筆すべきことであります。

小川先生のふるさとである会瀬の発展にも大きな貢献を果たしております。会瀬港を中心とした海浜開発、池の川下水道浄化センターの建設、会瀬青少年の家設置、会瀬交流センターの建設、会瀬小学校の改築、会瀬鹿島神社の改築など地域とのかかわりに大きな力を発揮されました。地域の行事に活躍する若者にも暖かい手を差し伸べていただき対外的に高い評価を得ているのも先生のお力の賜物であります。

6号バイパスの南進により変貌する会瀬の姿をお見せできないのが残念ですが、どうか天空よりご支援ください。小川先生が目指した「地域医療の確立」の志は小川百合子先生と医院のスタッフのみなさまの力でさらに大きな花を咲かせることでしよう。小川清先生、長い間ありがとうございました。

助川村の鹿島明神と相賀村の鹿島明神は廃社となっていました。

村人の信仰のよりどころを失った助川村や相賀村では、毎年のように伝染病が流行り、不漁不作が続いた。村では原因を、神を軽んじたなどためたと思ひ込んだ。徳川光圀が没(1700年)してから村民が鹿島明神の再建を水戸藩に請願した結果、元禄15年(1702年)10月に会瀬村(1698年に相賀村から会瀬村に改称)と助川村の鎮守として鹿島明神が再建された。

会瀬鹿島明神は現在の会瀬町1丁目3番地に鎮座していた。中世の車館跡の東側で村を一望する高台にあり、村の「ちんじゅさま」としてあがめられていた。明治以後、村社として「鹿島神社」と云われるようになった。

瀬谷義彦先生逝去

平成27年11月20日逝去、大正3年生まれで101歳でした。昭和23年(1948年)から平成7年(1995年)まで会瀬・成沢鹿島神社宮司。茨城大学名誉教授(日本史)・日立市名誉市民。住所 中成沢町2丁目日立市史(昭和34年発行)の編さん委員として編集・執筆に携わり茨城県では最初の市史として出版しました。特に第4章「日立地方における教育の発達」では明治5年の学校教育制度により誕生した小学校開設の状況が詳細に記されています。明治6年に開業した成沢小学校は教師は神官瀬谷登之介で義彦先生の祖父。「会瀬旧述」の瀬谷義文の祖先。